



Cell-Medicine, Inc.
Sengen 2-1-6-C-B-1, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0047, Japan
セルメディシン株式会社
〒305-0047 つくば市千現 2-1-6-C-B-1
Tel: 029-828-5591, FAX: 029-828-5592、ホームページ: <http://www.cell-medicine.com/>

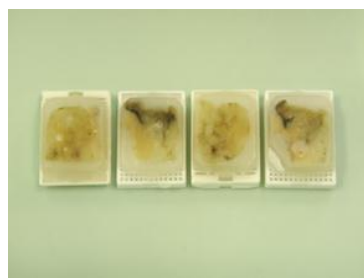
自家がんワクチン療法について

がん免疫治療にはたくさんの種類がありますが、「**自家がんワクチン療法**」は、がんの手術で取り出した患者さま本人のがん組織を使い、独自の技術で患者さま個人専用のがんワクチンに加工して投与する、**オーダーメイドのパーソナルながん免疫療法**です。



自家がんワクチン療法は、がんの術後再発予防、転移防止、残存がん治療を目的としたもので、がん細胞を特異的に攻撃する免疫細胞（細胞傷害性Tリンパ球）を体内で誘導することが可能です。化学療法とは異なり強い副作用がないため、高いQOLを維持できます。すでに肝臓癌では、アカデミックレベルながらランダム化比較対照臨床試験を実施しており、術後の再発抑制効果および延命効果があることを、統計学的有意差をもって証明しております（*Clinical Cancer Research*, 10, 1574-1579, 2004）。

また、治療が大変困難とされている脳腫瘍・多型神経膠芽腫（グレードIV）に対しては、12例中CR（完全寛解）1例、PR（部分寛解）1例、MR（一部縮小）2例、NC（不変）1例、PD（進行）7例が確認されており（*Cancer Science*, 98:1226-1233, 2007）、CR例では8年経過時点でも再発なしとの結果を得ております。消化器癌、乳癌等、その他の癌につきましても、ワクチン単独、あるいは放射線、低用量抗癌剤との併用で、転移巣の消失や腫瘍マーカーの減少等の有効性を示唆する症例が多数報告されております。これまで1200例以上の投与実績がありますが、副作用として報告されているものは、注射部位の発赤腫脹、一過性発熱等となっており、重篤な副作用はありません。



自家がんワクチンは、**がん組織部位のみ**を集めて**およそ2g以上**あれば、**ホルマリン固定組織、パラフィン包埋ブロック**（3～4個以上）のどちらからでも約1週間で作製することが



Cell-Medicine, Inc.
Sengen 2-1-6-C-B-1, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0047, Japan
セルメディシン株式会社
〒305-0047 つくば市千現 2-1-6-C-B-1
Tel: 029-828-5591, FAX: 029-828-5592、ホームページ: <http://www.cell-medicine.com/>

できます。また、ワクチン接種（原則として2週間間隔で3回）は外来通院が可能で、問診および前後の検査を含めても6週間と4日の治療期間で済みます。3回ワクチン接種後の検査を省略した場合は4週間と3日で終了します。脳腫瘍の膠芽腫のように、急速にがんが進行する場合は、1週間や10日間隔の接種に変更することも可能です。

弊社は、独立行政法人・理化学研究所の研究成果を基に、その臨床応用を目的として2001年に創立されたベンチャー企業です。自家がんワクチンについては、筑波大学など4大学と共同で臨床研究を行っております。また、京都・武田病院グループをはじめ、総合病院を含む全国50以上の医療機関で採用されており、そこでは自由診療ベースでがん治療が行われております。

自家がんワクチン療法に関するご質問がございましたら、お手数ですが弊社までご連絡願います。

セルメディシン株式会社
代表取締役社長 大野 忠夫

Tel: 029-828-5591

FAX: 029-828-5592

E-mail: tkb-lab@cell-medicine.com

年 月 日

病院

院長

先生

術後摘出組織について

拝啓 平素ご活躍のこととお慶び申し上げます。ご多忙のところ失礼申し上げます。

私は、貴院にて、

- ・ _____ の切除術を受けた _____ です。
- ・ _____ の切除を予定している _____ です。

この度、がん免疫療法の一つである「自家がんワクチン療法」を受診したいと考えており、ワクチン作製に必要な切除組織の提供につき、ご相談させていただきたく、この一文をさし上げます。

自家がんワクチンは、理化学研究所発・筑波大学発のベンチャー企業・セルメディシン株式会社が開発しているものです。がんのホルマリン／パラフィン固定組織上で患者自身の細胞傷害性 T リンパ球（CTL）が誘導可能という発見から始まり、基礎研究、大学病院等における臨床研究を経て現在に至っております。術後肝がん再発抑制、術後膠芽腫の増悪抑制についてはかなりの効果が期待でき、また、他のがん種についても症例ベースでは治療効果が散見されておりますため、がんの補助療法として導入が試みられております。

このためには、私自身の摘出がん組織が原材料（がん抗原用）として、大人の小指の 1/3 程度（1.5g 以上、できれば 2g 以上、パラフィン包埋ブロックなら 3～4 個以上）が必要です。貴院にて摘出した原発巣および転移巣のパラフィンブロックもしくはホルマリン固定標本をお分けいただけませんか（未使用分に関しましては、後日ご返却いたします）。

お忙しい中で申し訳ありませんが、ご協力・ご検討くださいますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

敬具

追記：がん組織をご提供いただけます場合は、ホルマリン漬け・パラフィンブロックのいずれでも、私に直接お渡しくださるか、または _____ 宛てにご郵送いただければたいへん有り難く存じます。

（貴院診察券番号） _____

（患者 氏名） _____

（患者自署署名、または、代理人自署署名） _____

印

備考：全国各地のがんセンター、大学病院、がん拠点病院、赤十字病院等でも、加工されたがん組織（パラフィン包埋ブロック）を患者に返却した実績があります。また、解剖臓器プレパレート保存使用貸借契約取消請求事件-医師側敗訴、の判例もあります（東京地裁 平成 12 年 11 月 24 日判決 （判例時報 1738 号 80 頁））